

脱原発・放射能汚染を考える

「関電の原発マネー不正還流を告発する会」に入会し、 関電幹部らを検察庁に告発しよう／うやむやにはさせないぞ！

関電の原発マネー還流についての告発人は、11月18日現在で1,000名を超えた。告発者の募集は続いている。最終的な締め切りは11月30日(必着)となっている。市民の怒りを検察に突きつけ公訴の実現を勝ち取ろう。

関西電力の幹部らが福井県高浜町の森山元助役(故人)から多額の金品を受け取っていた問題で、「関電の原発マネー不正還流を告発する会」が結成され、大阪地検に同社幹部らを刑事告発するための告発人を募ると発表した。1000人以上の告発者で年内の告発を目指している。同会の河合弘之弁護士は記者会見で「特別背任、会社法上の贈収賄を告発罪名にしたい」と訴えた。

告発への参加は

「告発する会」に入会し真相を究明しよう

入会と告発への参加は以下の住所に連絡し「入会申込書」を郵送で受け取るか、Net経由で書類を印字して、記入して下記宛先に11月30日必着で送付する。

住所：910-0859 福井市日の出3-9-3

宛先：原発に反対する福井県民会議気付

「関電の原発マネー不正還流を告発する会」

NET：<http://kandenakan.html.xdomain.jp/>

福島原発事故汚染水の海洋投棄を許すな

経産省の汚染水の処分を検討する委員会が18日に開かれた。福島県や東京などで行われた公開の論議では圧倒的多数が、海洋投棄に反対した。また汚染水にはトリチウム以外の放射性物質が含まれていること、トリチウムは安全でなく、危険であることが論議された。

今回の小委員会では、経産省はトリチウム汚染水を海洋や大気に放出するという「早くて、安上がりな」提案を行った。そして廃炉完了までに汚染水を処理するためのスケジュールを提起した。そして想定される被曝量は自然被曝量と比べて少量とした。ほとんどがYESマンで構成される小委員会での検討では、経産省と規制委員会の主張する「海洋投棄」が強行される危険がある。

パンフレット「今、天皇制を問う」

主権者たる国民の立場で即位礼・大嘗祭に反対する

主権者たる国民の立場で

今、天皇制を問う

即位礼・大嘗祭に反対する

2019年10月

大阪社会文化法律センター
「日の丸・君が代」強制反対 大嘗祭
即位礼を撤回させる大阪ネットグループ

大阪社会文化法律センターと「日の丸・君が代」強制反対大阪ネットの共同で小冊子が発行された。明仁前天皇の憲法違反の「お言葉」をスタートに、特例法の制定、元号制定、退位と新天皇の即位儀式など、政教分離に反し、憲法の実効性天皇条項に反する行為が行われている。主権者として議論を深めよう。

報告 11/12 講演会「天皇の国民的再認知についての疑問」(子安宣邦さん)

11月12日の講演会には約80人が参加した。2日後の大嘗祭を前にして、明仁前天皇が「お言葉」の中で持ち出した「象徴の勤めを果たす」が意味するものは何か、「祈る天皇」とは何かを明らかにする講演であった。

内田樹の「僕は天皇主義者になった」

内田の「僕は天皇主義者になったのです」は大きな社会的影響を与えている。彼は天皇主義者として自らを認知するに当たって、天皇制の歴史を辿りなおしている。それは「国民の霊的統合の軸としての天皇」の姿を歴史の上に確認しようとするものであり、日本会議や神道連盟の神道史的作業と類似したものである。

彼は天皇を中心とした祭祀的権力と世俗的軍事的権力の拮抗的關係の中に日本社会の安定があったと言います。彼も神道主義者たちも、明治に成立した天皇制国家そのものが、昭和の天皇制全体主義を作り出し、総力戦を可能にし、300万人を超える同胞の犠牲を強いた元凶であったことを見ようとしません。

天皇制的国民国家の形成

明治維新は、16世紀に解体された古代的権力構成を天皇制的国家権力として再構成したのです。この国家の最高の祭祀者であり、統治権者である天皇を中心にした祭政一致的国家という理念性(「国体」)を具えた国家

として再構成されたのです。そして「国体」の理念は国民を天皇制的全体主義国家に包み込み、総力戦という昭和の戦争を可能にしたのはこの天皇制的全体主義です。

「象徴的天皇」の創出

明仁前天皇は2016年8月の「お言葉」で「象徴の勤め」という言葉を使いました。それは憲法が規定している天皇の「国事行為」ではない、憲法上の規定をはるかに超えたものであった。そして明仁は、それを「国民の安寧と幸せを祈る」ことであり、「常に国民と共にある」ための「象徴的行為」<祈る天皇>であると強調した。

これに共鳴した内田樹は、「天皇が体現する祭祀的原理と軍事的・政治的原理が拮抗し合い、葛藤し合い、干渉し合い、決して単一の政治綱領に教条化しない」、それこそが「日本の伝統的な「国柄」の望ましいかたち」と言う。そして「天皇制がなければ、今の日本社会は手のつけられない不道徳、無秩序状態に陥っていたらろう」と述べるのである。

事実は「国民のために祈る天皇がいるお陰で、今の日本の政治権力はすでに手のつけられない不道徳、反国民的状态に陥っているが、国民は怒ることが無い」。日本の本当の危機は、その危機が天皇によって隠されてしまうことである。その危機の惨害は常に国民の上にある。

宝塚市の「氷河期世代」職員採用(11/9 朝日)

宝塚の3人の採用募集には、1816人が応募し、最終的には4人が採用された。中川宝塚市長が他の自治体にも呼びかけ兵庫県では、三田市、加西市、赤穂市、太子町が、兵庫県の社福事業団が募集し、県外では和歌山県、茨城県などでも同様の動きがある。

原電が関電・中部電・北陸電に支援要請(11/16 朝日)

東電が14日に原電に対して、東海第2原発の再稼働のために、2200億円もの支援(代金の先払い)を決定した。原電は関電など3社に対しても資金援助を要請した。原電の銀行借入に対する債務保証という形で約700億円の支援を予定している。東海第2原発は30^キ圏内に約96万人が居住し、再稼働はまったくの暴挙である。

米韓合同演習を延期で合意(11/18 朝日)

韓国国防相と米国防長官は17日バンコクで会談し、今月末に予定されていた「米韓合同航空演習」を延期することに合意した。両氏は延期の理由として、米朝実務協議の再開に向けた環境整備をあげた。米朝実務者協議は中断しており、朝鮮は演習について「我々の自主権安全環境を脅かす、応戦体制を講じるのは主権国家の堂々たる自衛的権利だ」と強く反発していた。

幕張で武器見本市／市民が抗議行動(11/19 東京)

11月18日に「DSEI JAPAN 2019」が千葉県幕張で開かれた。日本企業や海外企業150社が出展した。2014年に安倍首相が「武器輸出3原則」を撤廃して以来である。自衛隊の最新戦車も展示され、戦争ビジネスが強調された。会場には約410人の市民が集まり、武器見本市の開催に反対の声をあげた。会期中は会場前と駅前で抗議行動を続ける。



次回のフィールドワークは「吹田事件」を巡る

来年3月20日(金・祝日)の第4回フィールドワークは、『東洋最大の吹田操車場と吹田事件・在日朝鮮人』をテーマに、塚崎昌之さんのガイドで行われる。米軍による占領下で朝鮮戦争に反対し、日本の学生と在日朝鮮人が共に闘った歴史を学びます。詳しい案内は後日。

参加報告 第3回フィールドワーク『朝鮮通信使の跡地、大阪の「近代」化と川口居留地』

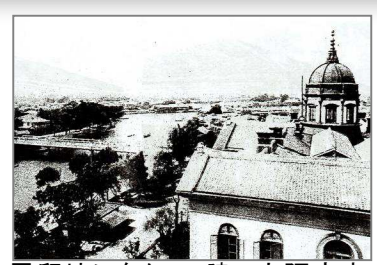


大阪開港と電信発祥の碑



戦前の川口／華商のビル

11月16日に塚崎昌之さんのガイドで、フィールドワークが行われた。出発点の西九条駅には22人が集まり出発。まず安治川をくぐる「安治川トンネル」を通過。この工事にも多くの朝鮮人労働者が使役された。トンネルを出ると富島地区、1970年に大阪が開港して運上所が置かれ、日本最初の電信が設置された。その横が外国人のための川口居留地と本田雑居地である。当時は多くの石造り・レンガ造りの洋館が建っていた。川口居留地に向かい合って大阪府庁が建っていた。その後、港湾業務は神戸が優位となり、多くの会社に移転した。川口にはプール学院などの学校と病院、華商の事務所、中華料理店が進出し、大阪大空襲で破壊されるまでは日本最大のチャイナタウンであった。解散地点の大正駅に近いJRの安治川鉄橋は強度を持たず特異な形状である。これは大阪砲兵工廠で作成された砲弾を搬送するためであった。



居留地に向かって建つ大阪府庁



砲弾搬送のための鉄橋

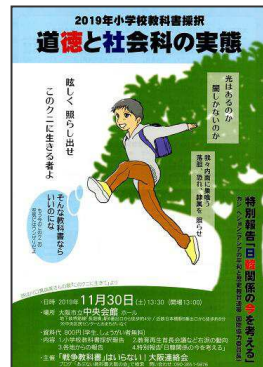
中国人強制連行国賠訴訟 11月27日いよいよ結審



日時:11月27日 14:00～ 場所:大阪高裁201法廷

大阪・花岡国賠訴訟もいよいよ高裁での「結審」を迎えます。実質的な最終審理となります。西松最高裁判決を覆すためにも高裁判決は重要です。

歴史の真実を明らかにし、隣国との友好・平和な未来をつくるためにも法廷を傍聴しましょう。



2019年小学校教科書採択 道徳と社会科の実態

今年春の小学校教科書採択での道徳教科書・社会科教科書の採択について報告し、論議します。大阪府、名古屋市、那覇市で最悪の選択は阻止されました。「アジアの平和と歴史教育連帯」のカン・ヘンジョンさんから「日韓関係の今を考える」特別報告も予定。

日時:11月30日 13:30～ 場所:大阪市立中央会館(地下鉄四つ橋線長堀橋) 主催:「戦争教科書」はいらない!大阪連絡会

南京大虐殺証言集会 2019 今年も「南京」の真実を!!

今年の「証言集会」では、「父の被害を受け継いで」、「悲壮な南京防衛戦の真相」の2つの証言が行われます。「南京」は終わっていません!日本の社会の「常識」になるまで——“南京”は終われないのです。ぜひ参加して証言を聞きましょう。



日時:12月7日 13:30～(13:00)開場 場所:PLP会館 5階大会議室(JR天満、地下鉄扇町) 主催:南京大虐殺60周年大阪実行委員会